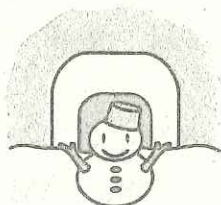




学校だより 冬休み月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakawada/>



感じる つくる 生きる・・・

感性豊かに生きる力を育む日々の創造

校長 瀧澤 優子

12月に入り、とても寒い日が続いております。コロナ禍にも関わらず、2週に渡っての個人面談にいらしていただきありがとうございました。また、感染予防対策にもご協力いただきまして感謝申し上げます。短い面談時間ではありますが、心配や不安大きいスタートとなった4月からの9か月を振り返り、大切なお子様の成長について話すこの機会は、大切なひと時と考えます。思い返せば、一斉臨時休校に始まり、分散登校、6月半ばの本格的な学校再開という段階をふみながら、縁あって巡り会った子ども達・職員は互いに様々を乗り越え、つながりをつくって生きてきました。子ども達一人ひとりには担任や友と出会い、「みんなよりよくありたいと生きる存在」「限りないよさや可能性を秘めた存在」であることを大切にし合い、日々を過ごしてきました。出会う、もの・こと・人に多くを学びました。そして、今・・・学校と家庭がしっかりと手を取り、その子らしさ（強み・弱みを含め）を認め、より一層、自分らしく輝き続けることを願い、その思いを共有できることを幸せに思います。また、個人面談を通しての振り返りの一つひとつは、指導者としての教師の指導（指導力）の振り返りとなり、教師自身が謙虚に学ぶよき機会ととらえます。日々、目の前を待たないで生きる子ども達・・・「みんな ちがって みんな いい」と子どもを育み続けるには、人の「愛」に優るものはないのではないかと考えます。これからの世の中がどんなに目まぐるしく変化・進化しても、「人」「心」「愛」には敵わないと思いたいです。「人」ばかりの学校。「教育は人なり」を噛み締めます。そして、改めて教師という仕事を考えます。この仕事に就いたなら、たとえ力及ばぬことがあろうとも、教師自らがこれからを生き抜く子どもを育むために、日々、感性豊かに形あるものも形ないものをもつくり出しながら、「心」ある生き方をすることが必須なのだと思います。子どものちょっとした変化に気付く感性、その心の内をノックできる人間力、どうしたら子どもが自分の力で乗り越えられるかを伝え、心に届けることができる指導力！確かな学力を育む授業力！等々・・・年齢を問わず、日々己を磨き続ける大切さを、身にしみて感じます。様々を気付かせてくれる個人面談へのご協力に感謝いたします。私も学校の日々をしっかりと捉えていきたいと気持ちを新たにしております。今後ともよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

12月6日・7日に、6年生は、日光修学旅行に行っていました。中和田小の今年度唯一の宿泊学習でした。テーマにあった「4. 5年生の思いを背負い・・・」という文言には、宿泊体験が叶わなかった4. 5年生の分までいい思い出をつくってくるという覚悟がありました。卒業学年であり、何とか今できる万全で実施したいという思いとコロナ感染拡大が収まらない現実の狭間で決行決断であり、不安や心配が消えることはありませんでした。また、温かな励ましの言葉や貴重なご意見もいただきました。おかげさまで、何とか無事にかげがえのない一泊二日をつくることができました。子ども自らが、生き生きと楽しもうとする輝く姿・瞳が忘れられません。「真に楽しい」とは、誰かに楽しませてもらうのではなく、自ら楽しもうとしてこそ味わえるもの！！そんな6年生でした。もちろん、帰校後2週間は経過観察であり、毎日6年の教室に顔を出し「みんな元気～？」が習慣になりました。そんな12月を過ごしつつ、後期前半最終日である本日を迎えられることに感謝の思いでいっぱいです。どんな時も温かく、最善でのご理解・ご協力いただきました保護者の皆様・地域の皆様、ありがとうございました。

来年も【感じる つくる 生きる】で邁進したいです。よいお年をお迎えください。